

小単元名 p.42～47	①古い道具と昔の暮らし	小単元 の目標	古くから残る暮らしに関わる道具や、それらを使っていた頃の暮らしの様子を調べ、地域の人々の暮らしの変化や人々の願いを考えるようにする。
-----------------	-------------	------------	--

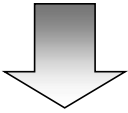
つかむ

p.42

◎古い道具を探してみよう。

- ・昔の道具や、その頃の人々の暮らしの様子について、関心を持たせる。
- ・学校の資料室や地域にある古い道具を見たり、使ったりする活動を取り入れたい。
- ・身近に道具がない場合は、p.44の写真の一部を拡大コピーするなどして、提示する。

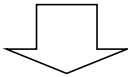
この道具は何につかったのかな？



昔の道具を使ってどんな暮らしをしていたのかな？

学習問題

古い道具を使っていたころの人々の暮らしは、どのような様子だったのでしょうか。



調べる

p.43～45
◎昔の道具を調べてみよう。
・歴史民俗資料館の見学をする。
活動の見通しを持たせる。※p.43上段
(資料館での体験活動等も可能)
・分かったことをメモするカードを用意する。
※p.44のカードの例、調べるポイント
・ホームページの活用 ※p.43下段
・地域に昔の暮らしについて話をしてくれるゲストティーチャーがいれば話を聞く活動を取り入れてもよい。※p.45, p.47

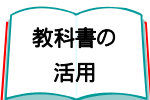
p.46
◎調べたことをまとめてみよう。
・どのような道具が、どのように使われていたのか、どのような工夫があるか等について調べ、カード等にまとめる。
・個人で調べたことを基に、個人、またはグループで道具年表をつくる。※p.46
・年表にまとめる作業を通して、道具の移り変わりの様子や、昔の人の知恵や工夫に気付かせたい。

道具年表の例

時代	道具	気づいたこと
おおよそ「古く」		<ul style="list-style-type: none"> ・まきてたく。 ・できたてはんばひつにつつま。 ・湯はまてはんばひがわるく、お湯もよりに「ざるお湯ぎ」に入れてすすいで、お湯は「めいしし」に入れて、めいししに工業していた。
「50」年前		<ul style="list-style-type: none"> ・スパチュラひとつで、いづれもかんたんにと、くさくさできるような気がした。このころ、履き慣れた湯がたくさん作られるようになった。
「今」		<ul style="list-style-type: none"> ・はやく、かんたんにごはんが炊ける。 ・保温もできて便利。 ・いろいろな炊き方ができる。

まとめる

p.46
◎道具を工夫し、暮らしをかえてきた人たちは、どのような願いをもっていたのでしょうか。
・これまでの学習を振り返り、道具や暮らしの変化の様子について話し合う。
・道具を使ってきた人々の工夫や、願いについて話し合う。



- 昔の人の暮らしの様子について予想したり、疑問を持たせたりする場面で、挿絵を利用する。
- 道具メモ（調べて分かったことを書くカード）、まとめの年表の例から、調べたりまとめたりする学習に見通しを持たせたい。
- インタビューの仕方から、見学の際のルールやマナーを身に付けさせたい。

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、古くから残る暮らしに関わる道具と、それらを使っていた頃の暮らしの様子を見学したり調査したりして、人々の知恵や工夫に気付かせ、人々の努力によって生活が大きく変化してきたことを考えさせることである。地域の博物館や資料館見学、お年寄からの聞き取りなど、直接体験を多く取り入れるよう配慮するとともに、体験から得たことや調べたことを年表にまとめるなど、表現活動も取り入れるとよい。

昔の道具

《どんな道具がよいか》

- ① 日常生活の道具で、意外性や驚きを感じるなど、児童が関心を持てる道具。
- ② 知恵や工夫が分かる道具。
- ③ 同じ用途の今の道具とつながりが分かる道具

例えば、右ホームページ「こどもはくぶつかん」には、次のような新旧10組の道具が登場する。

- ・あんどん (電気スタンド)
- ・肌っこ (シャツ)
- ・羽釜 (電気炊飯器)
- ・火鉢 (石油ストーブ)
- ・火のし (ファンヒーター)
- ・火のし (アイロン)
- ・ほうろく (フライパン)
- ・石うす (ミキサー)
- ・サイカチの実 (石けん)
- ・石ばん (ノート)
- ・つまごわらじ (くつ)



* 情報コーナー「主な見学場所」

- 仙台市歴史民俗資料館 295-3656
- 仙台市戦災復興記念館 263-6931
- 東北歴史博物館 368-0101

仙台市歴史民俗資料館

大きく三つのテーマ別資料館がある。

- ・「農村の暮らし」
- ・「町場の暮らし」
- ・「旧陸軍歩兵第四連隊コーナー」

他に体験学習室等も常設している。

《体験できるもの》

折り紙、双六、チャカポコ、お手玉、けん玉等の伝承遊び
 《事前に連絡しておくことで可能な体験》

- 「石うすによる粉ひき体験」
- 「行灯（あんどん）の明るさ体験」
- など

HP「こどもはくぶつかん」

小学校中学年の児童でも、楽しく展示に関する予備知識が持てる。資料館に行って調べたいという意欲付けとなる内容である。

絵カード

見学前に、衣食住など暮らしに関する道具の移り変わりについて、調べる計画を立てさせる。

- ・ごはんを炊く道具の移り変わり
- ・冷蔵庫の移り変わり
- ・暖房の移り変わり
- ・電話の移り変わり
- ・洗濯をする道具の移り変わり
- ・遊び道具の移り変わり

絵カードを利用して、児童が調べて分かったことを書きこむことができるようにする。



写真

「昔の台所」のようす
 「近所で集まりもちつき」
 地域のお年寄りの話を聞いたり、昔の写真を持ち寄ったりして、こうした道具を使っていた頃の暮らしの様子について話を聞かせたい。また、道具を使ってきた人々の思いを考えさせたい。

写真

- ・めしじこ→寒い季節に、炊きあがったご飯を保温できるように、おひつごとこの中に入れた。
- ・箱膳→箱の中に、飯椀、汁椀、小皿、箸などが入っていて、各自が一式持っていた。食べ終わったらお湯ですすぎ、そのまま箱にしまう。
- ・手回し洗濯機→1955年頃に電気を使わない洗濯機として売り出された。

年表

「ごはんをたく道具のうつりかわり」作成した絵カードをそのまま生かせるよう工夫させるとよい。

- ・模造紙に絵カードを貼る。
- ・紙芝居を作る。
- ・絵カードをつなぎ、使用していた時期を書き込む。
- ・折りたたみ式にする。など。

学習課題

調べたことを年表にまとめた後、それぞれの作品を比べ、人々の生活の移り変わりについて見付けたことや考えたことを話し合う活動を行うとよい。

人々の知恵や工夫に気付き、「現在の自分たちの生活は、祖先の努力の上に成り立っている。」という歴史的な背景に関心を持たせることも大切である。



※何年くらい前の道具なのかを記入させ、年代による移り変わりを意識させる。地域の高齢者が子どもの頃、父母が子どもの頃、現在の3つの時期を扱うと良い。

写真「むかしの人々の暮らし」

本ページは、昔の日常生活の様子が具体的に分かるように構成した。

生活の場面では、ご飯炊きと洗濯を取り上げた。子供たちが遊ぶ場面では、海賊ごっこと紙芝居を取り上げた。

また、「三種の神器」と言われたテレビ・電気冷蔵庫・電気洗濯機の広告を掲載した。

当時の人々の服装や使っている道具などと、今の生活との違いにも気付かせたい。併せて、当時の電気製品がいかに高価であったのかについても補足するとよい（当時の大卒初任給は約15,000円）。

小単元名 p.48～53	②のこしたいもの、 つたえたいもの	小単元 の目標	自分たちの生活の中に残る歴史に関心を持ち、昔から地域に伝わる年中行事やお祭りなどを調べ、地域の人々の願いについて考えるようにする。
-----------------	----------------------	------------	---

つ
か
む

p.48

◎ 地域に古くからのこっているものには、どのようなものがあるでしょう。

- ・地域にある古いものに目を向けさせる。古くから残る建物、昔から続く祭り、地域に伝わる伝統芸能など、地域に古くから伝わるものを取り上げる。
- ・p.50～51の「仙台歴史じまん」、p.52～53の「仙台に伝わる年中行事」を参考に、地域に残る古いものに目を向けさせても良い。

古くから残る建物はどのように守られてきたのだろう？

このお祭りは、なぜ今まで続いてきたのかな？

学習問題

地域に残る古いものや祭り、年中行事には、人々のどんな願いがこめられているのでしょうか。

調
べ
る

p.48

◎ 地域に残る古いものを調べてみよう。

- ・ガイドブックや図書資料、webなどを使って調べる。
- ・できれば見学や、保存に携わる人から話を聞く活動を取り入れたい。難しい場合は、教師が聞き取ったことを、資料に加工することも考えられる。
- ・分かったことをメモすることができる、カードなどを用意したい。

※p.49 メモの取り方 参照

- ・見学の際には写真をとっておき、まとめに活用したい。

p.49

◎ 調べて分かったことを発表しよう。

- ・分かったことをもとに、個人やグループで新聞にまとめることもできる。
- ・発表は、写真等を使いながら、より分かりやすく伝えることを心がける。
- ・発表を通して保存に携わった人々の願いや、伝統を引き継いできた人々の願いに気付かせたい。

写真の活用



ま
と
め
る

p.49

◎ 地域につたわる古いものには、どのような願いがこめられているか考えよう。

- ・調べたことを生かし、地域に残る古いものにどのような願いがこめられているか考えさせる。
- ・地域に残る古いものを、未来にどのように受け継いでいくのか考えさせたい。

○ 「ことば」や「まなび方コーナー」を参考にさせ、どのようにまとめたら良いか見通しを持たせたい。

○ 単元のまとめとして、地域に残る古くから伝わるものをカルタにまとめる活動が例示されている。学習したことを生かして、児童が意欲的に表現できる活動として参考にしたい。

教科書の
活用

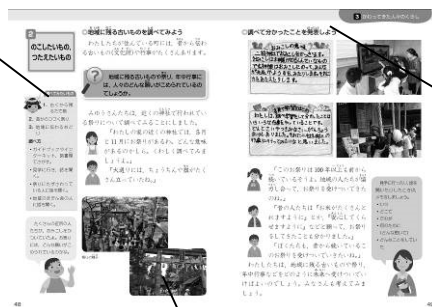
【小単元の指導に当たって】

本小単元は、地域に残る文化財や年中行事を見学・調査したり、調べたことをマップにまとめたりする活動を通して、生活の安定と向上に対する地域の人々の願いや、保存・継承するための工夫や努力を考えることができるようにすることをねらいとしている。地域に十分な調べ活動ができる素材がある場合には、ぜひ積極的に活用したい。P50～51の「仙台歴史じまん」、P52～53の「仙台に伝わる年中行事」の資料を活用したり、青葉まつりや七夕への参加経験などを話し合ったりして、人々の願いについて考えさせることも可能である。

「調べてみたいもの」

有形・無形を問わず、文化財の保存に取り組む人々の努力が見られる。また、年中行事にも、地域の生産活動や町の発展、人々のまとまりなどへの願いがみられる。

素材としては、人々の願いが児童にとらえやすいものを取り上げることが望ましい。



カード「調べて分かったこと」

新しくできた団地にある学校でも、団地ができる以前の学区を「地域」として捉え、観察や調査活動に取り組ませると良い。

その後、壁新聞作りなどの表現活動を行わせる。記事を書く用紙などは、事前に教師が準備しておくがスムーズである。

観察活動の際に撮影させた写真、話を聞いた人の顔写真、人々の願いを書き入れたカードなどを基にまとめさせるとよい。

写真「お祭りの様子」

児童にとって身近な文化財や年中行事に視点を当て、「古いもの調べ」への意欲を喚起させる。

子供たちも受け継いでいる市内の主な民俗芸能（地図上は赤の印）

昭和63年の合併以来、仙台市は全国的にも類を見ない民俗芸能の宝庫といえる大都市となった。

《神楽》

古くからの延命長寿、悪霊退散、そして五穀豊穡を祈ってきた神事芸能である。我が国で最もポピュラーな民俗芸能である。

《田植踊》

東北地方では、年の始めにその年の豊作を祈って田の神にあらかじめ祈願をしておくという田遊びの神事が各地にあった。仙台の田植踊の舞降りのはやしは全国的に定評がある。

《鹿踊、剣舞》

「ししおどり」「けんぱい」と読む。

共に念仏踊が変化した踊りで、盆の時期に集落の各戸を踊り歩いていた。仙台の鹿踊は、どこの組にも鹿にまつわる由来話を持ち、鹿供養から転じて先祖供養や病魔退散、五穀豊穡を祈願した。鹿踊と剣舞はほとんど一対になって伝承されている。「仙台市文化財パンフレット」



仙台市内の主な古い建物

（地図上は青の印）

仙台市内には、多くの古い建造物がある。地図には、その一部を記載した。

なお太白区は、名取川を中心にして、縄文・弥生の時代からの遺跡が、仙台で最も多い区である。

今回載せていない宮城野区も、遺跡が多い。平安の昔から宮城野区は都人のあこがれの地であり、古代・中世・近世の遺跡が多い。

《宮城野区》東光寺・青麻神社など

※遺跡に関する問い合わせ・出前授業の依頼等は
教育局文化財課 整備活用係
TEL 022-214-8893
<http://www.city.sendai.jp/mana/bunkazai/index.html>

仙台に伝わる年中行事

地域に、伝統的な祭りや年中行事が特にならない場合は、自治会や商店街主催の祭りや行事を扱うことも考えられる。実際に行事に参加できない場合は、博物館や図書館で調べたり、関係者に聞き取りに行ったりする活動が考えられる。

〈調べる内容〉

- ・祭りや行事の時期、参加者、目的、特徴
 - ・祭りや行事に込められた願い
 - ・祭りや行事の保存、存続に努力している人々の思いなど
- 年中行事に関して、調べたことをまとめるだけでなく、地域で行われる練習会等に参加するなど、地域との結び付きを大切にする。



七夕かざりの七つ道具

- ・短冊→学問や書道の上達
- ・紙衣→病気や災難の厄除け
- ・折鶴→家内安全・健康長寿
- ・巾着→商売繁盛
- ・投網→豊漁・豊作
- ・くずかご→清潔と儉約
- ・吹き流し→織姫の織糸の象徴

《仙台青葉まつり》5月

江戸時代に始まった東照宮の祭礼「仙台祭」が由来。

明治8年政宗公没250年祭、昭和10年の300年祭で盛んになった。その後途絶えたが、昭和60年に市民の祭りとして復活した。仙台城築城の折に石工たちが踊ったという言い伝えもある「すずめ踊り」も、昭和62年より青葉まつりで踊られるようになった。

《夏越祭》6月

昔、「茅の輪を腰につけると、疫病を免れる」という伝説があった。これにちなみ「茅の輪」を門口にはれば災厄を免れるという信仰が生じた。現在は、鳥居や社門に掛けられるようになった。古歌を唱えつつ、八の字状に3度くぐり抜けると体のすみずみまで清められ、災厄を免れると伝えられている。